童の内面に関わることであり、長期にわたる道徳的実践の事例観察を通して慎重に検討していかなければならない。

図1　【研究仮説】

学習指導において、児童生徒の持っている「よさ」や「その子らしさ」を把握し、その「よさ」や「その子らしさ」を生かす視点から、達成度の個人差や興味・関心、適性に応じる指導の在り方を工夫すれば、基礎的・基本的な内容を身につけさせたり、自覚させたりするとともに、一人一人の個性を生かし、伸ばすことができるであろう。

実践への方策	道徳の時間の学習における実践への具体化の方向
○　一人一人の持っている「よさ」や「その子らしさ」の把握	●　道徳的価値に対するその子らしい見方や考え方を調査する。 それによって (1)　道徳の時間で学習する道徳的価値に対する見方や考え方の広がりを把握する。 (2)　道徳の時間で学習する道徳的価値に対するそれまでのその子の見方や考え方を意識させる。
○　「よさ」や「その子らしさ」を生かす視点	●　児童生徒のその子らしい見方や考え方が具体的に表出できるような主題を構成する。 ●　道徳的価値に対するその子らしい見方や考え方を学習場面に生かせるような指導の手だてを工夫する。
○　達成度の個人差に応じる指導の在り方	道徳の時間の指導では、道徳的実践力の育成をねらいとしているので達成度よりもむしろ長時間かけての変容を目指す指導を心がけていく。
○　興味・関心、適性に応じる指導の在り方の工夫	●　一人一人の持っている見方や考え方を交流し合う方法や場の設定を工夫する。 ●　多様な考えに関心をもち検討し合えるような指導の在り方を工夫する。 ●　認知の型、表現特性等を生かした「価値の内面的自覚」の在り方を工夫する。
○　基礎的・基本的な内容を身につけさせたり自覚させたりする	●　道徳性の基盤となる基礎的・基本的な内容を自分自身を見つめ直す視点として自覚させ、柔軟で調和のとれた道徳的実践力の育成を目指す。
○　一人一人の個性を生かし、伸ばす	●　多面的、多様な考えを検討吟味する中で、児童生徒一人一人に「その子らしさ」を自覚させ、生活の中で生かしていこうとする意欲を高める指導の在り方を工夫する。 ●　長期にわたる意図的計画な指導の中で、「その子らしさ」を発見させ生かす学習活動を繰り返すことによって、「その子らしさ」をさらに伸ばしていく。

図2　【道徳における研究の仮説】

道徳の時間の指導において、児童一人一人の持っている「その子らしさ」を把握し、学習内容とのかかわりから道徳的価値に対する見方、考え方をしっかり持たせ、それを基に多面的、多様な考えを吟味、検討できる指導の在り方を工夫すれば、基礎的・基本的な内容に支えられた道徳的実践力が高まるとともに個性を生かしていくことができるであろう。

授業の流れ	指導の要点と手だて
○　授業前の価値内容に対する意見調査 ねらいとする価値内容への方向づけ、意識づけを図る。 ●学習する前の価値内容に対する考え 自分を見つめる視点1	○　1～2週間前に意識調査を実施する。 ○　意識調査に表れた実態をもとに授業の設計をする。 ●その子らしさの把握→座席表カルテ ●主題構成の吟味 ●発問研究 ●意図的指名構想
1.　授業前に書いた価値内容に対する考えを読み授業の出発点を明確にする。 2.　場面状況を構造的にとらえる。 ・イメージポスターを基にした状況の予測 3.　資料により主人公のおかれている状況の細部を把握させ、主人公に対する共感を深める。 4.　場面状況について話し合ながら、検討し合いたいことを明確にする。 5.　問題状況を乗り越えるための自分の判断や考えをしっかり持つ 自分を見つめる視点2 1主題2時間扱いの場合 「自分の判断や考え」を集め、座席表に表す。 ↓印刷配布　↓ 児童：意見交流したい友だちや話し合いたい内容を決める。 教師：その子らしい考えを生かす場の構成を考える。 6.　様々な見方や考え方にふれたり、意見交流したりする。 ・相手を選択しての意見交流 7.　意見交流で得た多様な考えをもとによりよい判断や考え、理由について話し合う。 ・高められた価値観 自分を見つめる視点3 8.　自分を見つめる視点1、2、3をもとにそれまでの自分はどうであったか振り返る。	1.　価値内容について書いた意識調査用紙を再配布し、ねらいとする価値への方向づけを図る。 2.　主人公のおかれている状況や立場等について構造的に把握させた後、具体的細部を検討させていく。 先行オーガナイザー法の導入 3.　資料の提示を視覚型、聴取型、文章読み取り型を組み合わせることにより一人一人が場面状況をより認知しやすくする。 4.　主人公のかかえている悩み、問題等を場面状況と関係づけてとらえるようにする。 絵画的構造的板書の活用 5.「自分の考えをもつ」ことは相互交流して多様な考えに出会う際の前提となる。他の考えとの違い、浅さ、深さ、よさ等が分かるためには、「自分の考え」を明確にした上での比較が必要である。 書く活動の導入→道徳シートの活用 6.　子ども自身が、座席表をもとに意見交流したい相手をきめることを基本としたい。 子ども自身が活用する座席表の活用 意見交流の場作り ○対話形式　○ワークショップ形式 ○グループ討議形式　○ミニパネル形式 磁石氏名板の活用 ― 推薦氏名 7.　話し合いの組織化を図っていく。その際、対立する見方、別の角度からの補足など多面的な検討、吟味ができるよう意図的氏名、推薦氏名等を取り入れていく。 8.　価値の内面的自覚は、高められた価値観＝視点3と自分なりの判断や考え＝視点2、それまでの価値に対する考え＝視点1を比較させることで具体的にさせていきたい。 書く活動の導入→道徳シートの活用

② 小学校算数科（鎌田小　四年生）

基礎的・基本的な内容を定着させ、児童一人一人の「よさ」を生かし、伸ばすために、中・長期的な展望にたった継続的な授業実践が必要であるという考えにより、今回の実践では領域の異なる二つの単元に取り組んだ。

単元全体を通して解決する楽しいめあてを持たせるとともに、基礎的・基本的な内容を十分内包した課題を設定し、「よさ」を生かすために、一人一人の達成度や学習速度に応じた多様な練習活動やコース別学習、学習内容を生かしての問題作りやその解決など様々な活動を展開した。

更に、毎時間の最後に位置づけた自己評価、「お手紙カード」による相互評価、教師のコメントの三点を個人カルテに集積して活用した。多くの視点からの「よさ」が書かれたこのカルテは、常に児童の手元にあったため、多面的に自分の「よさ」を意識化するのに役立った

なお、本研究の第四年次分の詳細については、研究紀要第八十三号(平成三年三月発行)を参照していただきたい。

四、第五年次の研究（平成三年度）

本年度は、第四年次までと同様に、研究協力校における検証授業を通して実践的に主題を追究するとともに、五年計画の最終年度を迎え、今までの研究のまとめをする。

〔研究協力校及び検証教科〕

福島市立平野小学校　体育科